

イー・アクセス株式会社 【9427】

2007年3月期 中間決算説明資料
(2006年4月 ~ 2006年9月)



2006年11月15日

I. 2007年3月期中間決算の状況

3 ページ

II. 事業の状況

12 ページ

ADSL・ISP事業

13 ページ

モバイル事業

19 ページ

I. 2007年3月期中間決算の状況

3 ページ

II. 事業の状況

12 ページ

ADSL・ISP事業

13 ページ

モバイル事業

19 ページ

2007年3月期中間決算ハイライト

決算	<p>単体の営業利益は前年同期比24.7億円、62%増加 連結業績予想を上方修正し、通期で黒字を確保 中間期末から四半期配当を実施</p>
ADSL・ ISP事業	<p>解約率は1Qの2.08%から2Qは1.85%に改善 上期に比べ下期の契約数の伸びは鈍化傾向 下期は引続き高い利益率を維持する見込み</p>
WiMAX事業	<p>都内で初のWiMAXのフィールド実験を実施 12月に総務省開催の公聴会に参加</p>
モバイル事業	<p>NTTドコモとローミング契約に合意 データ通信のフィールド実験を都内で実施 2007年3月にデータサービスを東名阪エリアで開始予定</p>

2007年3月期中間実績

単体の営業利益は前年同期比62%増、経常利益は前年同期比81%増
モバイル事業の損失が当初予想よりも少なかったため、連結でも利益を確保

(単位：億円)	単体			連結		
	2006年3月期 中間期 (2005/4-9) ⁽¹⁾	2007年3月期 中間期 (2006/4-9)	前年同期比 (増減%)	2007年3月期中間期 (2006/4-9)		連結 ⁽²⁾
	ADSL・ISP	モバイル	=			
売上高	303.5	282.5	6.9 %	282.5	-	282.5
営業利益	39.9	64.6	+62.0 %	64.6	25.6	39.0
経常利益	32.2	58.1	+80.8 %	58.1	34.1	24.0
当期純利益	26.4	34.6	+31.1 %	34.6	34.1	19.0
EBITDA	96.0	111.4	+16.0 %	111.4	25.2	86.2
設備投資額	28.8	24.1	16.3 %	24.1	18.5	42.6
減価償却費	56.1	46.8	16.6 %	46.8	0.4	47.2

(1) 2006年3月期中間期の数字はモバイル事業の損失を営業利益レベルで約8億円、経常利益レベルで約9億円を含む。

(2) 当期利益に少数株主損失18.5億円の控除を含む。

2007年3月期通期業績予想

置局設計の最適化や局運営の効率化を図り、
基地局コストや運営経費を見直した結果、連結の通期予想を上方修正

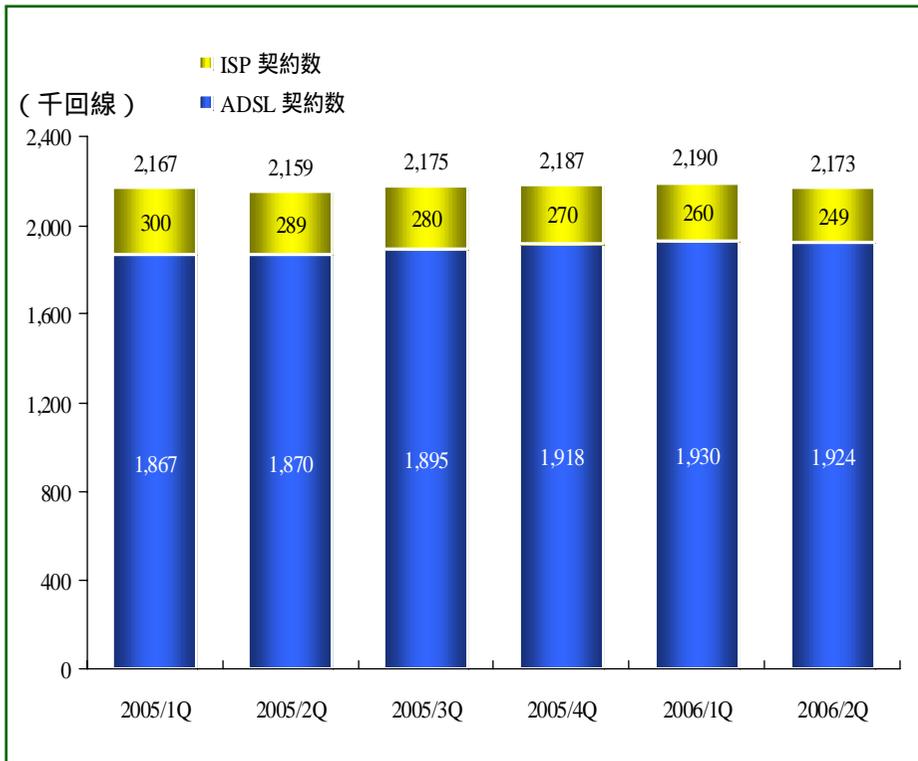
(単位：億円)	今回(11/15)業績予想 2007年3月期(連結)			前回(5/11)業績予想 2007年3月期(連結)		
	ADSL・ISP	モバイル	連結(*)	ADSL・ISP	モバイル	連結
売上高	560.0	8.0	560.0	560.0	8.0	560.0
営業利益	109.0	106.0	3.0	109.0	141.0	32.0
経常利益	97.0	119.0	22.0	97.0	160.0	63.0
当期純利益	54.0	119.0	3.0	54.0	160.0	13.0
EBITDA	205.0	102.0	103.0	205.0	136.0	69.0
設備投資額	130.0	470.0	600.0	130.0	807.0	937.0
減価償却費	96.0	4.0	100.0	96.0	5.0	101.0

*売上にセグメント間の内部売上の消去8億円を含む。また当期利益に少数株主損失68億円の控除を含む。

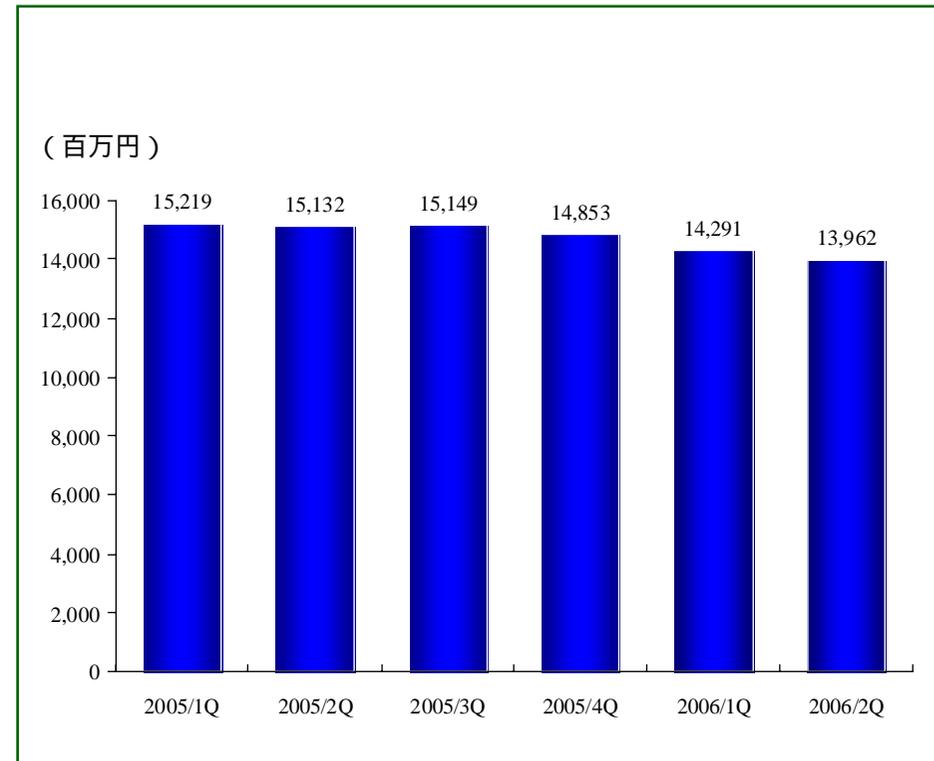
契約数及び売上高の推移

上期のADSL契約数は6,000回線純増、ARPU及び売上高は業績予想通り進捗
下期の契約数の伸びは上期に比べ、鈍化傾向

契約数の推移



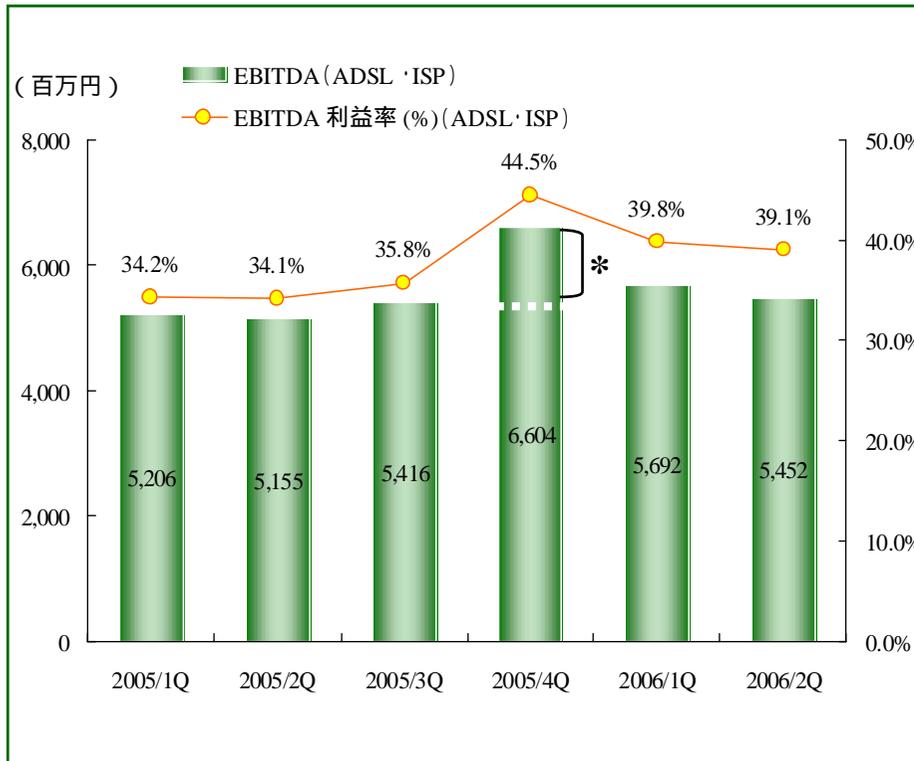
売上高の推移



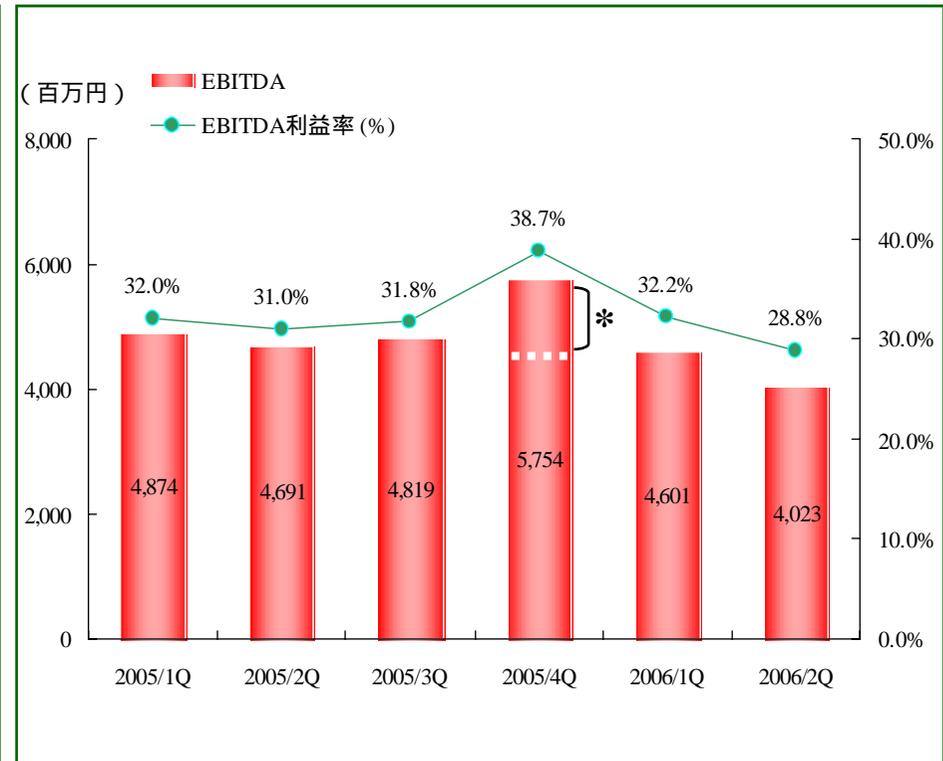
EBITDAの推移

ADSL・ISP事業におけるEBITDA利益率は39%。連結のEBITDAはモバイル事業の損失が少なかったため、当初の計画よりも高い水準で進捗

EBITDA及びEBITDA利益率の推移
(ADSL・ISP事業)



EBITDA及びEBITDA利益率の推移
(連結)

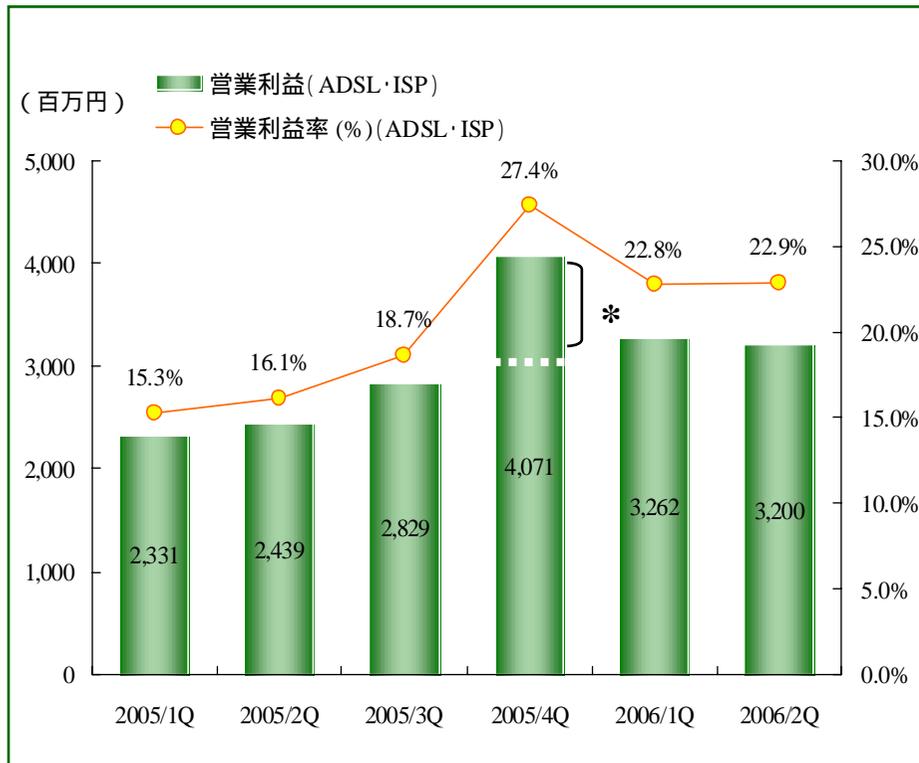


* 2005/4QはNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響約10億円を含む。

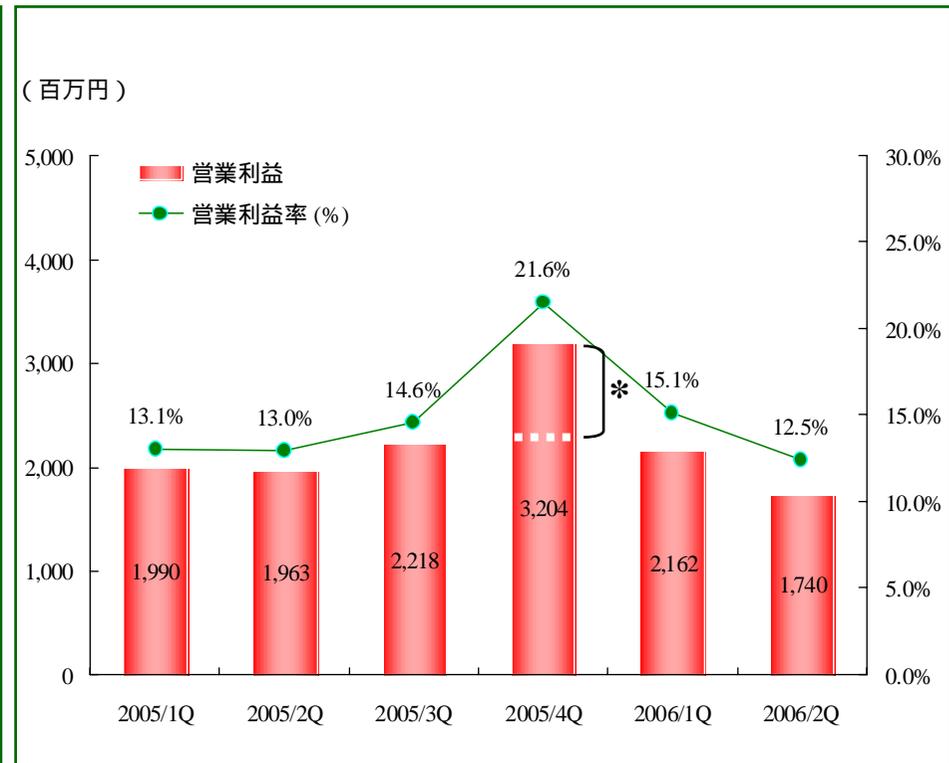
営業利益の推移

2QのADSL・ISP事業の営業利益率は22.9%
 一時的な遡及精算を除いたベースでは過去最高の営業利益率

営業利益及び営業利益率の推移
 (ADSL・ISP事業)



営業利益及び営業利益率の推移
 (連結)

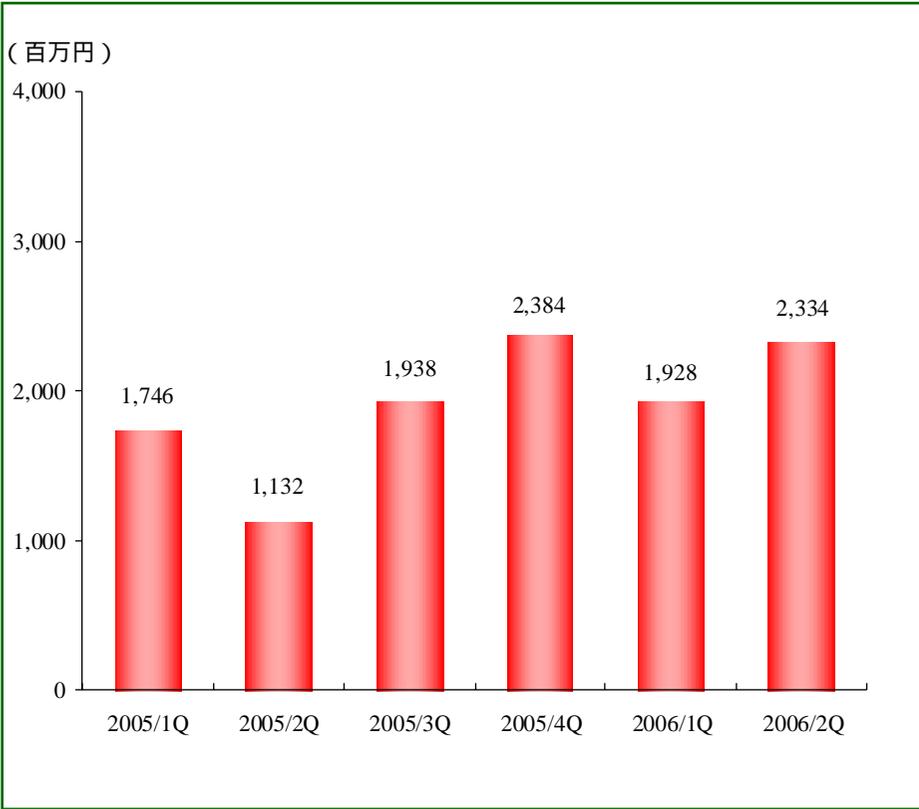


* 2005/4QはNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響約10億円を含む。

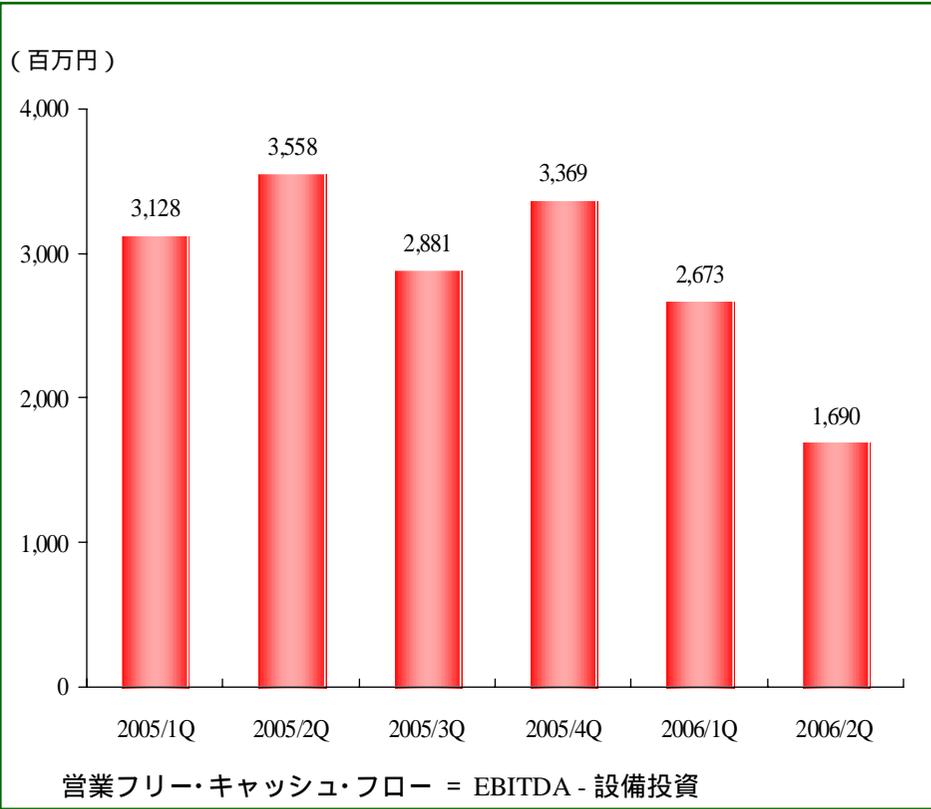
設備投資と営業フリー・キャッシュ・フローの推移

上期の設備投資は基地局設計の見直し等により当初計画よりも低い水準で推移
 下期はモバイル事業の設備投資が本格化し大幅に増加予定

設備投資額の推移（連結）



営業フリー・キャッシュ・フローの推移（連結）



バランスシートの状況

連結現預金残高は1,818億円、連結のネットキャッシュは903億円
モバイルネットワーク展開が本格化する下期からキャッシュアウトが増加予定

	<単体> 2006年9月末		<連結> 2006年9月末	
	期末残高	総資産に対する比率	期末残高	総資産に対する比率
(単位：億円)				
現預金残高	537.6	38.8 %	1,818.0	82.5 %
有利子負債	914.4	66.0 %	914.4	41.5 %
純有利子負債	376.8	27.2 %	903.6	--
少数株主持分(イ・エ・ell)	--	--	835.6	37.9 %
自己資本合計	375.1	27.1 %	349.4	15.9 %
総資産	1,385.7	100.0 %	2,202.7	100.0 %
純有利子負債/自己資本比率	100.5 %	--	261.3%	--

I. 2007年3月期中間決算の状況

3 ページ

II. 事業の状況

12 ページ

ADSL・ISP事業

13 ページ

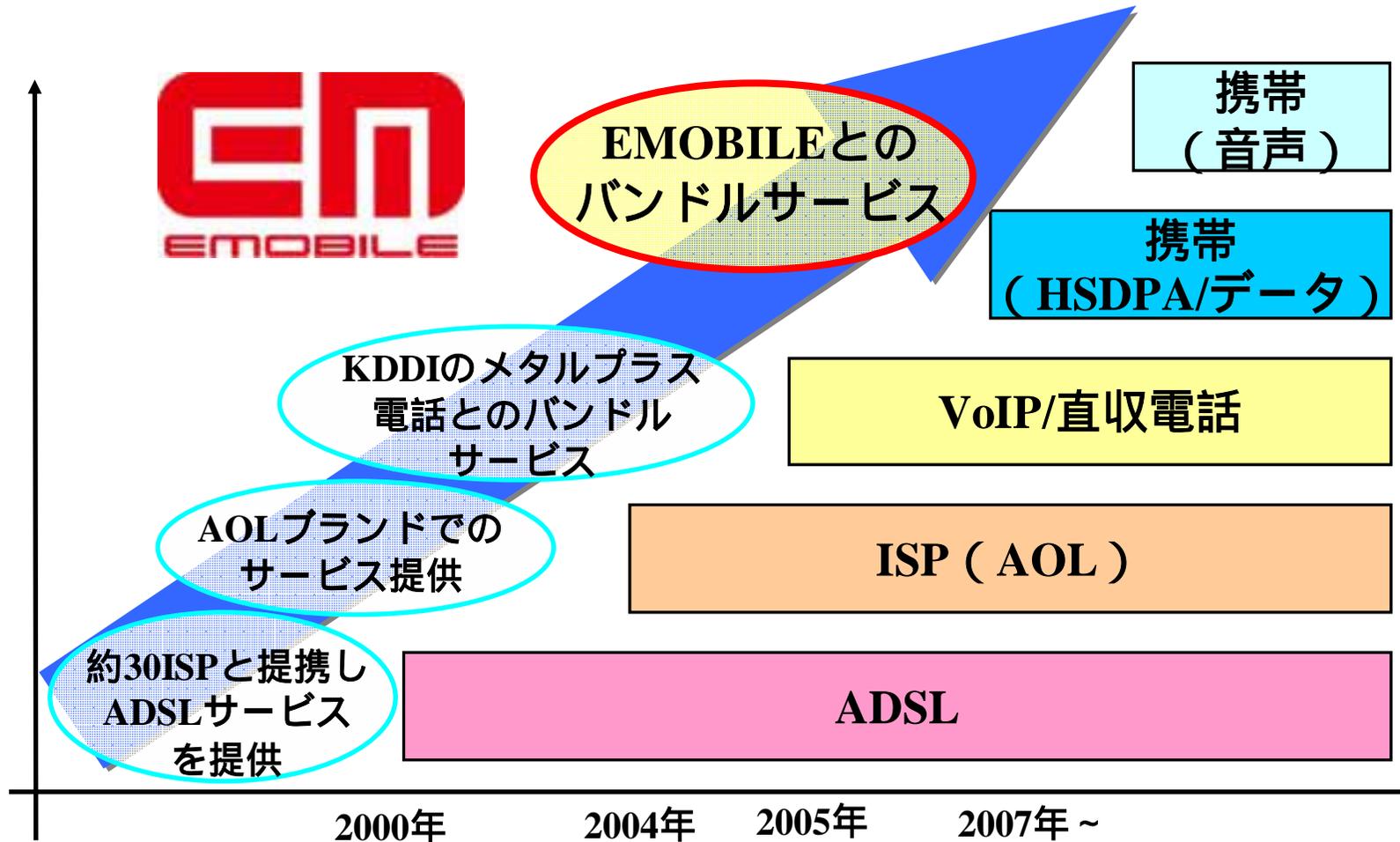
モバイル事業

19 ページ

ADSL・ISP事業

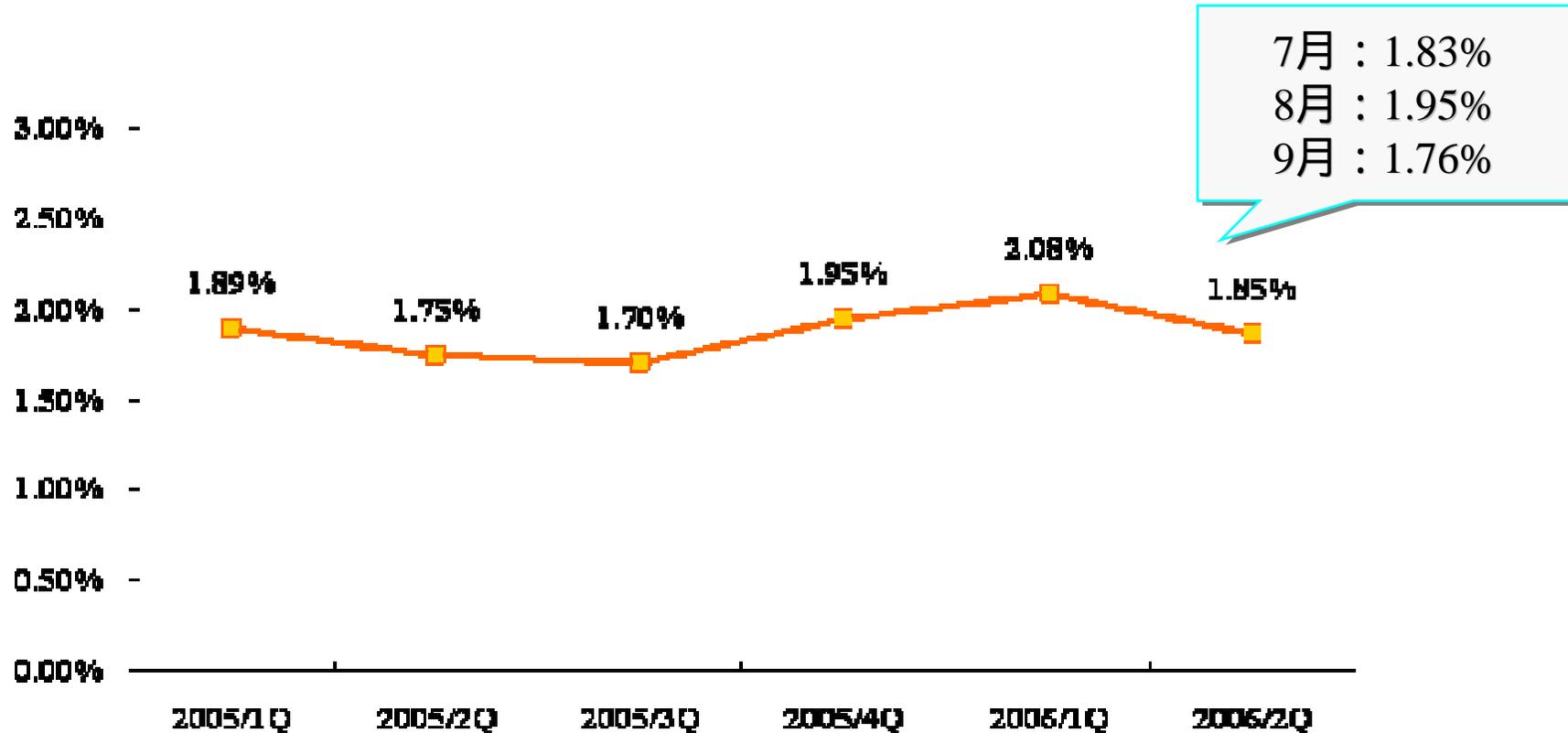
ADSL・ISP事業のロードマップ

バンドルサービスの提供で幅広いADSLユーザー層の獲得を目指す



ADSLの解約率

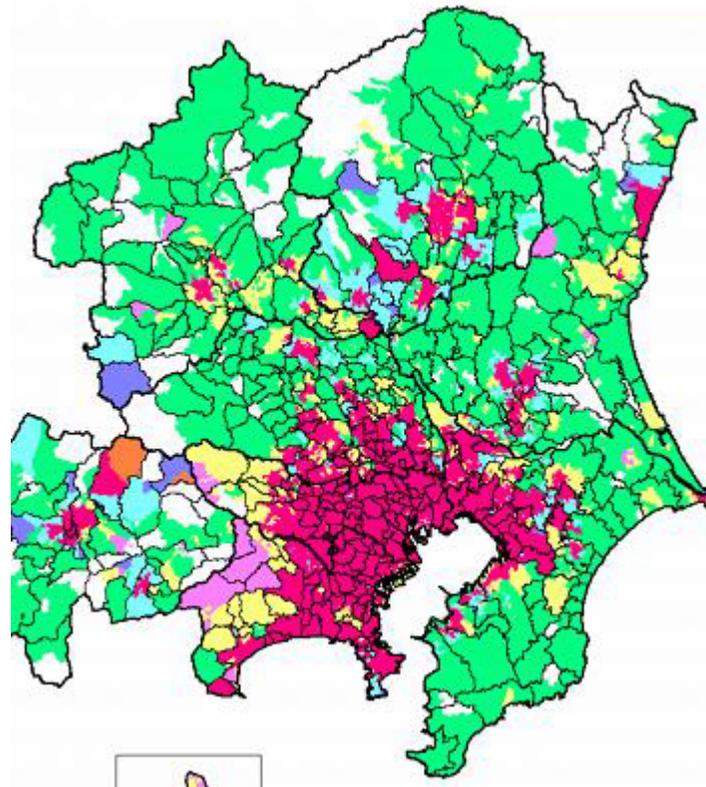
2Q解約率は1Qから改善。FTTHへの移行による解約率への影響は限定的



FTTHとADSLの比較（サービスエリア）

ブロードバンド整備の進んでいる関東でもADSLしかないエリアが大半

2006年6月末現在



■ ADSLのみ提供されている地域



総務省：全国ブロードバンドマップより

http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/broadband/map/index.html

FTTHとADSLの比較(価格) @Niftyの例

幅広いユーザー層に対応したサービスメニューを提供

	月額使用料	月額合計
ダイヤルアップ: (5時間)	950 円	1,800 円
ADSL: 960K	1,890 円	1,890 円
ADSL: 12M	2,000 円	2,000 円
ADSL: 50M	3,770 円	3,770 円
ダイヤルアップ: (11時間)	2,000 円	3,870 円
光サービス B FLET's: マンションタイプ	4,150 円	4,150 円
光サービス B FLET's: ホームタイプ	6,400 円	6,400 円

注) 上記は2006年11月現在のプランでの比較

NTTダイヤルアップ使用料 (8.5 円/3分)

WiMAXへの取組み

2.5GHz周波数帯のWiMAX免許取得に向け積極的に取組みを開始

総務省対応

- ▶ 12月5日の公聴会で免許獲得希望事業者としてプレゼンテーションを予定

技術

- ▶ 東京23区内3局において、2.5GHz周波数帯を使ってフィールドトライアルを実施中
- ▶ 2.5GHz帯における広帯域移動無線アクセス技術に関する技術的条件作業班に参加し、実験結果を作業班に提出

標準化活動

- ▶ WiBro Mobile WiMAX Community (WMC) へ参加
- ▶ WiMAXフォーラムに参加



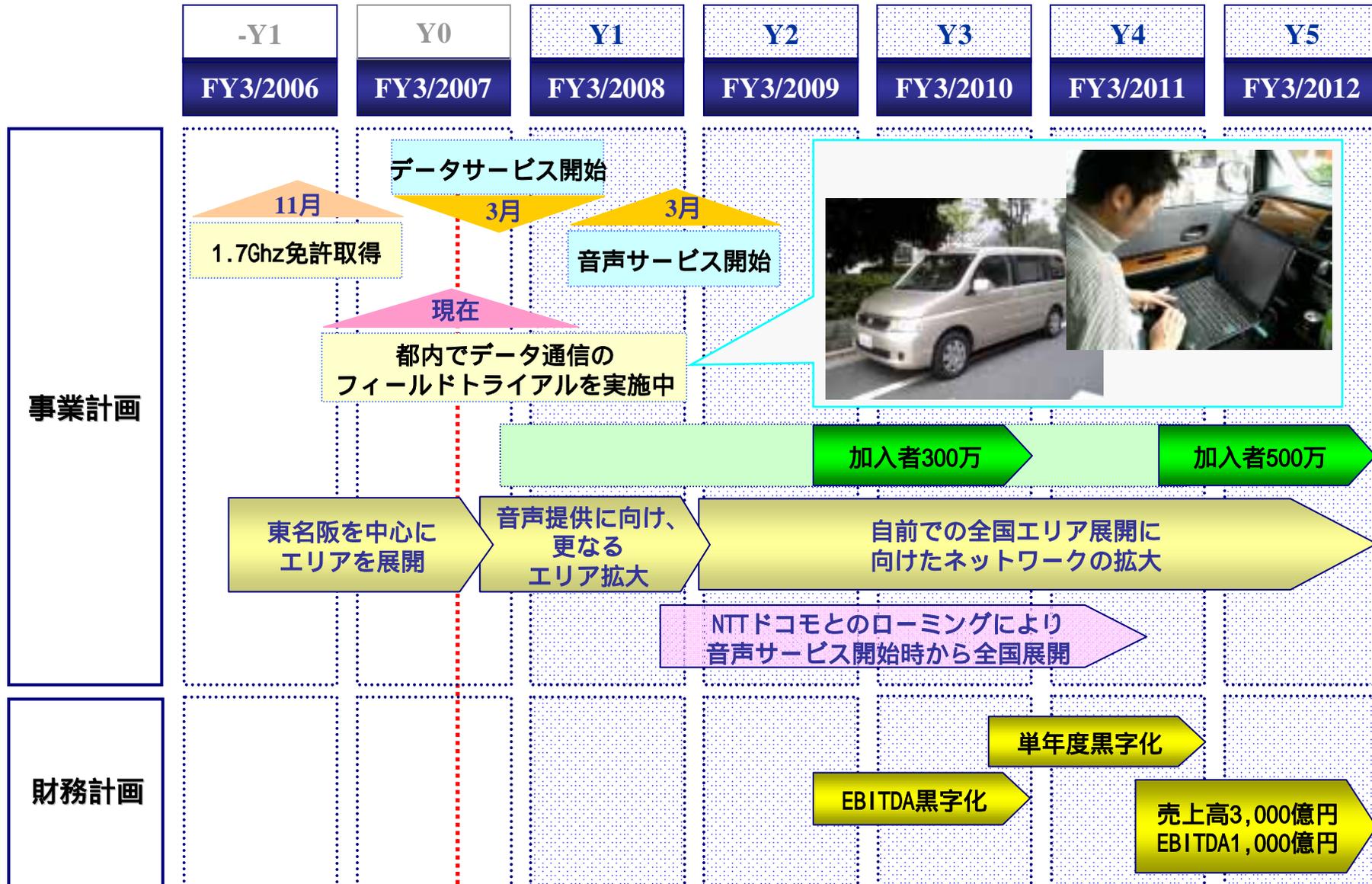
WiMAXのアンテナ

モバイル事業

モバイル事業のハイライト

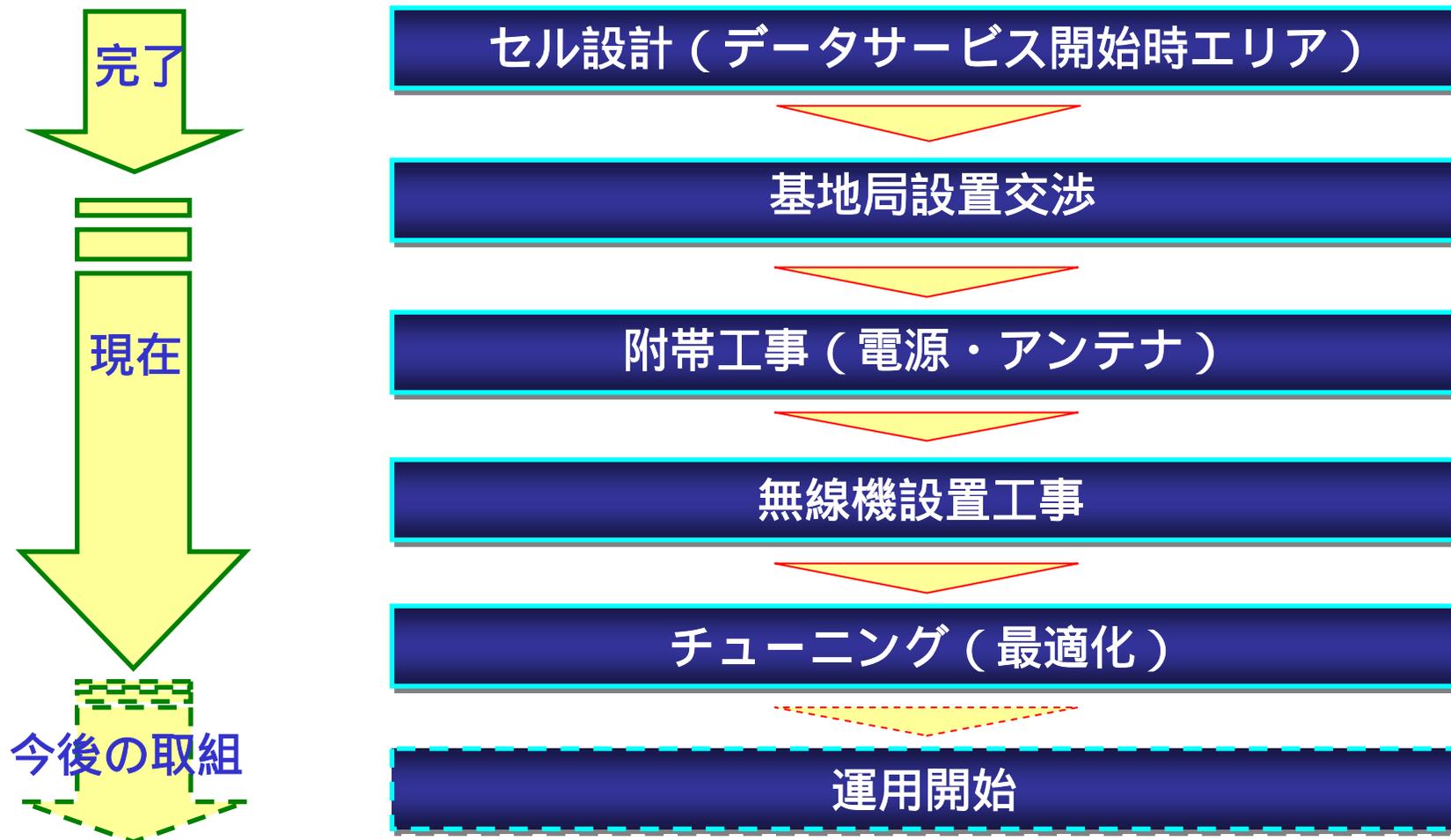
ネットワーク	2007年3月期のネットワーク構築は東名阪エリアに集中
	NTTドコモとローミング契約に合意
	データ通信のフィールド実験を都内で実施
サービス・その他	2007年3月にデータサービスを東名阪エリアで開始予定
	顧客管理、サポート、SDP等のシステムを開発
	イー・モバイルの新しいロゴを発表
財務	下期より設備投資が大幅に増加予定
	基地局コストや運営経費の見直しに伴い、業績予想を修正

事業展開スケジュール（予定）



ネットワーク構築のプロセス

上期は基地局設計や基地局交渉を中心に行い、現在は工事に着手
設備投資は工事完了時点で認識されるため、主に下期より発生予定

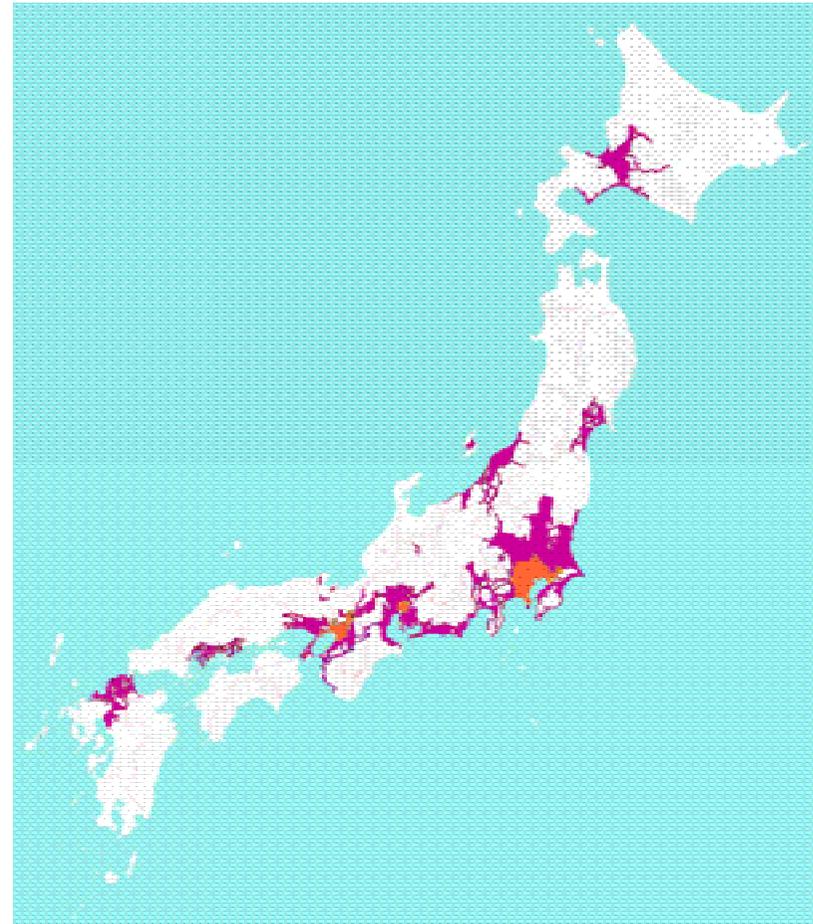


サービスエリア展開とローミング

順次自社モバイルネットワークを拡大。NTTドコモからローミングを受けることにより、2008年3月から、全国にて音声サービスを開始予定

サービス展開

- ▶ 2007年3月時点では、東名阪エリアを中心にデータサービスを展開（オレンジ部分）
- ▶ 2008年3月時点では、関東、中部、近畿、福岡、新潟の都府県、及び札幌周辺、仙台、広島を自社ネットワークエリアとして提供。（オレンジ+ピンク部分）その他をローミングエリアとし、音声サービスを全国展開。
- ▶ 2010年10月までに自社ネットワークを全国展開し運用を開始する



イー・モバイルの事業戦略

<p>ネットワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ゼロからのネットワークデザイン構築 - 世界的にコスト競争力のある“グローバル”なベンダーを選定 - コンパクトな小型基地局設備 - 最先端技術の導入：3.5G HSDPAとIPバックボーン - ドコモとのローミング契約によりサービス開始時から全国エリアをカバー
<p>端末</p>	<ul style="list-style-type: none"> - データ中心の端末 - コンパクトサイズの端末 スリムで大型のスクリーン - 世界基準の端末の導入
<p>アプリケーション /SDP</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 次世代のSDPプラットフォーム - 将来のアプリケーションを考慮した拡張性のあるシステムソフトウェアの設計
<p>販売/マーケティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ADSL・ISP事業とのシナジー <ul style="list-style-type: none"> - 量販店での窓口 - MVNO - FMC

1. 設備投資額の抑制
2. 運用コストの削減
3. 拡張性
4. 最先端のデザイン及びシステムの導入

イー・モバイルの新しいロゴ



「赤」をシンボルカラー
としました

モバイルにかける私たちの情熱・
エネルギー・挑戦の力強さ

私たちが切り開く新たなモバイル領
域の無限の拡がり

を表す色だからです。

シャープで斬新さを感じさせるデザイン
の中においても丸みをつけることにより
優しさを感じさせています。

人間の感性を刺激する斬新さ
(シャープネス)を実現しつつ、

人間の使い心地を最も大事に
(優しさ)考える、

という私たちの想いを込めています。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。